アルマゲドン

その後世界平和

アルマゲドン、そして世界平和

アルマゲドンは、地球に災いの予兆が広がる中で、一般的な言葉となりました。これは、国家や思想間の対立、特に世界的な混乱が起きる際に使われます。メディアは頻繁にこの言葉を使用していますが、多くの場合、執筆者がその語源や背景を本当に理解しているかどうかは疑問です。多くの人は、神が関与する大いなる闘争や壮絶な戦い、善と悪の戦い、すべての戦いを終わらせる戦いとして捉えています。

　アルマゲドンは、聖書の最終巻で「全能の神の偉大な日の戦い」と関連付けられた聖書用語です。（黙示録16:14）黙示録は、真理と誤り、正義と不義、キリストと反キリストの時代を超えた闘争を象徴的に描いた書物です。この描写では、一方では「獣」「竜」「偽

預言者」「バビロン」「娼婦」「不浄な霊」「蛙」などといった象徴が用いられ、他方では「子羊」「花嫁」「聖なる都」などといった象徴が用いられています。ハルマゲドンは、この書物で用いられるもう一つの象徴であり、現在の時代を終わらせる大いなる最終段階の闘争と関連付けられています。この闘争の末、キリストの王国が勝利を収め、普遍的で永遠の平和が確立されます。

「ハルマゲドン」という語はヘブライ語起源で、地理的・歴史的にメギドの丘と関連しています。メギドは古代の聖地において戦略的な位置を占め、丘陵地帯への重要な峠を支配していました。メギドの周辺地域はイスラエルの主要な戦場でした。ここでギデオンと彼の三百人の兵士はミディアン人を破り、またここでサウル王はペリシテ人に敗北しました。

聖書の多くの象徴は、世界が慣れ親しんだものと類似しています。例えば、聖書は王国や政府を獣で表すのと同じように、世界もま

た獣を用います。また、特定のアイデアを伝えるために戦場を用いることも、世界では実践されています。例えば、「軍隊が『ワーテルロー』に遭遇した」と言う場合、一時的に勝利を収めていたものの、突然かつ予期せぬ敗北を喫したことを意味します。ナポレオンのワーテルローの敗北が、この特定の戦場に特別な意味が与えられた理由です。

　アルマゲドンも同じです。それはイスラエルの戦場であり、預言におけるその象徴的な意味を理解するためには、古代イスラエルが参加したすべての戦いに共通する特別な特徴を発見することが必要です。それは彼らが常に勝利したからではありません。彼らはそうではなかったからです。神は時々、民が彼に罪を犯したため、懲戒のために敗北を許しました。しかし、イスラエルの戦いにのみ見られる一つの特筆すべき特徴があります。それは、他の国々の戦いには決して当てはまらない点です。神が直接介入し、自身の永遠の計画に従って、彼らの勝利と敗北を支配したからです。

この事実を考慮すると、アルマゲドンという言葉は、ウォータールーと同じように明確な意味を持ちますが、その意味は全く異なります。それは、神が明確に関与し、結果を導く戦いであることを示唆しています。正義の勢力が最終的に栄光ある勝利を収めることを保証する戦いであるのです。さらに、預言が示すように、これは時代の最後の大きな戦いであり、サタンのすべての勢力の永久的な敗北をもたらし、キリストの王国の確立への道を準備します。これが、それが「全能の神のその大いなる日の戦い」と記述されている理由です。 - 啓示 16:14

「その大いなる日」

預言は明確に示しています。「全能の神の大いなる日」とは、現在の時代の終わりを画する期間です。これは「現在の悪の世界」（ガラテヤ人への手紙1:4）または社会秩序が終焉を迎える時です。聖書では「復讐の日」や「最後の時代」と記述されています。また「主の日」とも呼ばれるのは、主が世界の事柄

に介入し、罪と破滅への狂った下り坂を止め、長く約束された王国を確立するためです。

この「主の日」は、次の預言で言及されています。「主は言われる。わたしが獲物に襲いかかる日まで、わたしを待ちなさい。なぜなら、わたしの決心は、諸国を召集し、諸王国を一つに集め、彼らにわたしの怒りを注ぎ、わたしの激しい怒りのすべてを注ぐためである。なぜなら、全地はわたしの嫉妬の火で焼き尽くされるからである。」 - ゼファニヤ書3:8

この「諸国への復讐の日」は、預言者イザヤによってさらに詳細に記述されています。彼は次のように書きました：「主は勇士のように進み出で、戦いの男のように嫉妬を煽り立てる。彼は叫び、雄叫びを上げる。彼は敵に勝利する。私は長い間黙っていた。私は静まり、自分を抑えていた。今、私は産む女の叫びのように叫ぶ。私は一度に滅ぼし、食い尽くす。」 - イザヤ42:13,14

6

悪の支配

私たちの最初の祖先が神の律法を破った以来、悪は人類の事柄において支配的な要因となってきました。サタンは人間の世界の支配者でした。イエスは彼を「この世の王子」と呼びました。（ヨハネ12:31; 14:30）古代イスラエルの時代、神が選民を支配していた頃、他の国々は時々神の権威と力と接触しました。様々な異教の王たちは、神が民を保護し救い出した奇跡的な方法により、彼の主権を認めざるを得ませんでした。しかし、世界が神の力のこのような現れを目撃してから、長い年月が経過し、その結果、世界中の議会の場で、彼への信仰と、彼が人間の事柄を支配する能力への信頼は、ほとんど存在しなくなっています。

神はこの状況を、自身が世界的事柄への干渉を控え、平和を保っているからだと説明しています。(イザヤ42:14)一方、彼の民は、神がもはや平和を保たず、人間のことに干渉することをやめる日まで、主を待ち望むように

励まされています。その時、神は獲物に襲いかかり、この現在の悪の世界である全地が「私の嫉妬の火」によって破壊されることを確信しています。この悪と悪のシステムを破壊する業において、主は力ある者として進み出し、戦いの男のように嫉妬を煽る者として自らを現し、これが全能の神のあの大いなる日の戦いを引き起こすのです。

主は、サタン、大いなる敵が不従順の子らの心で支配することを許してきたが、人間の被造物の最終的な幸福に対しては、決して関心を失ったことはない。実際、罪と死の支配に干渉することを控えてきた数千年の間、神は、いわば、栄光ある救いの日のための土台を築いてきました。しかし、その贖いと回復の計画は、世界から気づかれることなく、静かに進められてきました。ハルマゲドンにおいて、神は全人類に御自身を現し、すべての国の目が開かれてその栄光を目撃するでしょう。

罪を世界に導入したのは、創世記で蛇として擬人化された堕落したルシファーであり、黙示録20章2節で「あの古い蛇」と称される存在です。彼は母エバを欺き、彼女を通じてアダムに神の律法を破らせました。これにより、罪の罰である死が彼らに下されました。そこで人類は死に始めました。自己中心性がほぼすべての human 努力の動機となり、自己中心性から敵意、憎しみ、犯罪、戦争が生じました。六千年間、死にゆく世界はより良い時代を望みながら苦闘してきましたが、自己中心性のため、常にその目標を達成できませんでした。

神の御手

神は依然として人類を愛しておられ、その言葉の中に、サタンの支配の完全な打倒、そして人類を長年苦しめてきたサタンの罪と死の支配の憎むべき要素の破壊へと導く神の業の概略が示されています。神の手が人類の歴史にどのように働いてきたかは、主に神の言葉に記録された輝かしい約束の数々によって

、私たちの慰めと教訓として明らかにされています。

無知な者には、神の約束が古代の思想家の空想に過ぎないように見えるかもしれませんが、その中に神の御計画の人類に対するパターンが認められます。私たちがそのパターンと、主が人類を罪、病気、死の束縛から最終的に解放するために準備されてきた素晴らしい計画を見れば、神の計画に失敗はなかったこと——主がご自身の壮大で愛に満ちた計画の成就において失敗した例は一つもないこと——が確信されます。

希望の最初の光

創造主は、その「古い蛇」——悪魔——への言葉において、罪が世界に入り込んだにもかかわらず、人類の創造を放棄しなかった最初の兆候を示しました。神はサタンに、「女性の『種』があなたの頭を砕く」と告げました。（創世記3:15）もし神が後に、預言者たちを通じて人類の　種族に対するご自身の意

図を詳細に示さなかったなら、私たちはこの蛇への曖昧な言葉が本当に何を意味するのか知ることができませんでした。しかし、預言の光に照らされると、女性の種によって蛇の頭を砕くことは、実際にはサタンの支配の打倒とキリストの王国の勝利を象徴する記述であることが明らかになります。

啓示の書第20章では、女性の種が蛇の頭を砕く方法について、簡潔な象徴的な記述が与えられています。神から天から降りてきた天使が、悪魔でありサタンであるあの古い蛇を捕らえ、千年間縛り付けるとされています。この力強い天使こそが、約束の種であるキリストであり、この記述は彼の王国設立と千年の統治の簡潔な説明を提供しています。また、この千年の間、死者が復活し、回復された地上での永遠の命の機会が与えられることも示されています。

エデンの悲劇から長い年月が経った後、神は再び滅びゆく人類への関心を示し、忠実な僕アブラハムに約束をされました。神はイス

ラエルの父であるアブラハムに、地のすべての家族を祝福するつもりだと告げました。この約束において、神は再び「種」、すなわち神の摂理によって導かれる子孫について言及されました。神はこの約束を誓いによって確認し、これがイスラエルのメシヤの到来への希望の基盤となりました。

この約束は、神の聖なる預言者たちによって様々な形で繰り返し述べられました。約束された種について、預言者イザヤは次のように書きました。「私たちに子供が生まれ、私たちに息子が与えられる。その肩に統治が置かれ、その名は『驚くべき助言者、全能の神、永遠の父、平和の君』と呼ばれる。」その支配と平和の増し加わりに終わりはなく、ダビデの王座と彼の王国において、裁きと正義をもってこれを整え、確立する。万軍の主の熱意がこれを成し遂げる。」 - イザヤ9:6,7

この義の政府の到来に関する約束において、最も注目すべき点は、その悪の勢力に対する勝利が、神の奇跡的な力によって保証され

ていることです。ここで言及されている「子」はキリストであり、預言者は「その政府は彼の肩に負われる」と宣言しています。これは、神の愛の目的である悪を地上から滅ぼし、義を高めるための神の計画の実現を、神の子であるキリストが肩に負う責任を意味します。

これは何という慰めでしょう！これは、神が数十億の世界を創造し、人間を造り、命を与え、すべての生き物に命を与え続ける無限の力が、サタンの罪の要塞の防壁を成す罪と死の勢力に対するキリストの攻撃を駆動するということです。預言者は宣言します。「万軍の主の熱意がこれを成し遂げる！」

救い主の誕生

イザヤのこの預言は、イエスの誕生と共にその成就の始まりを告げました。彼は神の愛の贈り物として生まれ、神が世界への祝福の約束を時が来れば全て成就させるという保証として現れました。このことに従い、天使が

イエスの誕生を告げた時の言葉は、いかに重要なものでしょうか。「恐れるな。… 今日はダビデの町に、あなたがたのために救い主がお生まれになった。その方は主キリストである。」 - ルカ2:10,11

30歳の時、イエスは宣教を開始しました。この宣教は、彼が天から遣わされた使者であり、神が約束された平和と生命の世界政府を確立するため来られたことを、常に思い出させるものでした。メシヤの王国の祝福を記述する約束の中には、盲人の目を開き、病人を癒し、死者を甦らせるという予言が含まれていました。イエスはこれらのことを神の力で行い、自身が約束の種であり、そのような素晴らしい約束をされた神が、それらを十分に果たすことができたことを証明しました。

イエスの地上の奉仕は極めて短く、わずか三年半に過ぎませんでした。彼は予言された「王の王」でありながら、敵の一部は彼を十字架にかけることを許されました。(黙示録19:16) 彼を約束されたメシヤ、海から海へ、

川から地の果てまで支配する者だと信じた者たちの目には、この出来事はどれほど不思議な展開に見えたことでしょう。 - 詩篇72:8

　さらに不思議なことは、主の愛の哲学でした。彼はそれを厳格に実践し、自分を捕らえて殺した者たちに対して、いかなる抵抗も示さなかったのです。過去と現在のすべての偉大な支配者は、反対者に対して勇敢な戦いを繰り広げることで権力を獲得し維持してきました。しかしイエスは、自分自身を防衛しようとはせず、弟子たちにもそうさせませんでした。彼の無防備な頭に、嫉妬に駆られた敵の怒りが降りかかり、彼は墓に葬られました。

　神の計画は失敗しなかった！使徒パウロは「愛は決して失敗しない」と教えている。（コリント人への第一の手紙13:8）イエスは世界の贖い主として、敵さえも愛し、自ら命を捧げた。（ヨハネ3:16）サタンは、イエスが地の王となる神の計画を妨げたと思ったかもしれませんが、彼は単にその計画の必要不可

欠な要素、すなわち「すべての人の贖い」として、人間キリスト・イエスの犠牲をもたらすのを助けたに過ぎませんでした。 - 1テモテ2:6

神が約束された祝福は、永久に続く性質のものでした。メシヤの王国によって人類にもたらされる平和は、罪の呪いから贖われた者たちが永遠に生きる機会を得て享受する、永久の平和でした。人類にそのような永久的で広範な祝福を保証する方法は、世界の贖い主であり救い主であるイエスの死以外にはありませんでした。彼は、その臣民が生きるため、そして死んだ者たちが命に回復される機会を得るために死んだのです。

人類はいまだに苦悩しています

イエスが世界の罪のために死に、神の力によって死からよみがえったあの激動の時代から、ほぼ二十世紀が経過しました。しかし、彼はいまだに地の王として認められていません。そして、彼が滅ぼすために死んだ大敵である死は、罪の呪いを受けた人類を、その有

害な掌握の中にいまだに閉じ込めています。預言はイエスを平和の王子として描いていますが、彼の時代以来、戦争は各世代の幸福を破壊し続けてきました。イエスは命を与えるために来ましたが、彼が命を捧げた人々は依然として死に続けています。イエスは愛の道を教え、示し、自己中心主義よりもその優越性を指摘しましたが、自己中心主義は依然として世界を支配しています。なぜでしょうか？

聖なる言葉は、この明らかな遅れの理由を明かしています。それは、この二十世紀にわたる失敗の時代においても、神の種族を解放する計画が着実に進んでいたことを示しています。神の現在の時代の計画は、人類の中からキリストと共に彼の王国の権威を行使する民を選ぶことでした。聖書はこれらについて多く語り、彼らがキリストと共に生き、支配する希望の条件を明らかにしています。要するに、彼らは愛の道に従い、キリストが犠牲を払ったように命を捧げ、神、真理、正義へ

の忠誠を「死に至るまで忠実である」ことで証明するよう召されています。 - 黙示録2:10

これらの者の犠牲と苦難の経験は、彼らをキリストと共に支配する未来に備えます。神の摂理において、彼らの神聖な計画における役割は、地のすべての家族の永遠の祝福に貢献します。二千年もの間、世界から気づかれず知られずに、この主の忠実な従者たちは、正義と愛の橋頭堡を強化し続けてきました。そこから最終的に、死の囚人たちの解放がもたらされるのです。この全人類の救済に先立ち、忠実な階級は最初の復活において死から甦り、キリストと共に生き、支配します。その後、キリストの導きのもと、全人類は死の眠りから覚醒し、永遠に地上に住む機会を与えられるでしょう。

時代の終末

神の計画において、キリストと共に千年王国で支配する者を選別し訓練するためのこの時代は、ほぼ完了しようとしています。私た

ちはまさに時代の終わりに生きており、したがって、神の御手が人間の事柄に明確かつ直接的に現れるのを期待し、実際に目撃する時です。神の言葉の預言は、現在の出来事を描き出し、それがキリストの王国が確立される直前に起こるべき出来事であることを明らかにしています。

1914年に始まり、王たちをその王座から引きずり下ろし、国家教会を根絶し、戦争、飢饉、疫病によって数億の人類を滅ぼした一連の災厄は、聖書に明確に予言されており、すべてが神がもはや人間の事柄に介入することを控えていないこと、罪と罪深い制度に対する神の報いの日が迫っているという不可避の事実を証ししています。

現在の諸国民の苦難の最終的な結末が、自己中心的な地上の支配者の手に委ねられているのではなく、明日の世界がキリストの王国によって統治されることを認識することは、慰めとなる。また、次の千年間、諸国民が全体主義の隷属や腐敗した民主主義の形態に専

制的に支配されることはないことを認識することは、喜ばしいことである。

正当な王

既に述べたように、神は一時的に古代の民イスラエルを支配しました。聖書には、イスラエルの様々な王について「主の御座に坐した」と記されています。（歴代誌第一29:23）しかし、最後のユダ王ゼデキヤの廃位により、この体制は終焉を迎えました。預言者エゼキエルは、これが「彼、すなわちその権利を有する者が来るまで」であると説明しています。（エゼキエル21:27）これはキリストを指し、明確な意味は、キリストの王国が確立される時まで、神は地上のいかなる政府においても代表されないということです。

最後のユダ王の廃位は紀元前606年に起こり、その後、主は異邦人の王国が世界の社会秩序を維持することを許す長い時代が始まりました。この時代は、イエスの預言で「異邦人の時代」と形容されています。この預言で

イエスは、「エルサレム」——ユダヤ人とその政治体制の象徴——が「異邦人によって踏み荒らされる」まで、異邦人の時代が続き、「異邦人の時代が成就する」まで続くことを説明しました。——ルカ21:24

聖書には、異邦人の時代が2520年の期間であることを示す証拠があります。バビロンは、この期間中に権威を行使した最初の異邦人の勢力でした。その始まり頃、主はネブカドネザルに夢を見させ、人間のような像が現れるのを見ました。ダニエルはこれを、神から与えられる権威が、まずバビロンによって、次いでメド・ペルシャ、ギリシャ、ローマによって順次行使されることを表すものと解釈しました。

この預言的な像において、ローマは鉄の足で表され、1914年直前のヨーロッパの諸国家に見られた分裂したローマ帝国は、像の指で表されました。幻視において、石が像の足に打ちつけ、それを倒し、粉々に砕くのが見られました。ダニエルは、この石が神の王国を

表し、最終的に全世界を満たす王国であると説明しています。

異邦人の時代の2520年は、1914年に終了する予定でした。この予言の時代は、ユダヤ人と異邦人という両民族に関連していたため、その以降に起こった出来事は、両者の地位の変化を示すべきであり、実際その通りです。旧ローマ帝国の最後の残滓は破壊され、粉々に砕かれています。一方、ユダヤ民族はパレスチナの多くを支配しており、1948年に新しいイスラエル国家が成立しました。私たちはまだ粉砕の時期にありますが、既に十分な出来事が起こっており、現在の主の不可視の力が、キリストの王国が地上に確立され、全人類に平和と生命の祝福がもたらされる前に、サタンの社会秩序を破壊するために、既に巨大な影響力を発揮しているという確信を正当化するに足るものです。

この視点からみると、1914年に勃発した第一次世界大戦は、イエス・キリストが主の将軍として、父から「相続」として受け取る前

に諸国を征服しているという事実の確固たる証拠です。(詩篇2:8)私たちが目撃していることは、ゼファニヤ3:8の最初の部分成就です。そこでは、主、すなわちエホバが証人として立ち上がり、地の社会を裁くために言われます。「私の決定は、諸国を召集し、王国を召集し、彼らに私の怒りの炎を注ぐことである。」世俗の歴史家たちは、第一次世界大戦を、その時から人類を包み込んだすべての災いの始まりとし、第二次世界大戦を、一時的に停止した敵対行為の再開と述べています。これらすべて、そしてそれ以上のことが、主の怒りの日、すなわち「全能の神の偉大な日」（黙示録16:14）に起こり、その結果、文明の基盤が弱体化しています。

「最後の日の」諸国への苦難のあらゆる段階は、サタンの支配の転覆と関連しています。例えば、イザヤ13:4-6の預言を参照してください。「山々から大勢の人の騒ぎ声、大勢の民の騒ぎ声。諸国の王国が集まり、騒ぎ立てる。万軍の主は戦いの軍勢を召集される。彼らは遠い国から、天の果てから、主と、そ

の怒りの武器を持って、全地を滅ぼすために来る。叫べ。主（エホバ）の日は近づいた。それは全能者からの破壊として来る。」

使徒パウロは、主の日について述べる際、「突然の破壊」が「産む女性の陣痛のように」来ると言っている。(1テサロニケ5:1-3) 陣痛は、痛みと痛みの間の比較的穏やかな期間を伴う痙攣として現れます。これは、1914年に異邦人の時代が終結して以来、出来事のパターンでした。パウロは、これらの痙攣が「平和と安全」の叫びと結びつくことを予言し、この予言もまた非常に正確であることが証明されました。

第一次世界大戦前には、永続的な世界平和を確立するための巨大な努力が払われました。1913年は国際平和年でした。その後、破壊的な混乱の最初の痙攣が起こりました。戦争後、さらに「平和と安全」の叫びが上がりました。その後、第二のグローバルな闘争が起き、さらに「平和、平和！」という叫びが続きました。崩壊は続き、神の手が介入し、苦

悩に満ちた死にゆく世界に真の平和をもたらすまで、この状態は続きます。

神が古代のメギドの戦場で民のために戦い、彼らの従順さが勝利に値する時、勝利を与えた時、神の戦略は常に同じではありませんでした。ギデオンがミディアン人に対して勝利を収めた場合、主の戦略はイスラエルの敵が互いに破壊し合う結果となりました。他の場合、奇跡的な力が用いられました。この世の王国がキリストの王国の確立に備えて排除される大いなる戦いにおいても同様です。一つの預言は「すべての人の剣は兄弟に対して向けられる」と宣言しています（エゼキエル38:21）。この世の王国は互いに戦い合う中で、文明の要塞に恐ろしい破壊をもたらしてきました。そして、その終わりは未だ来ていません。

多くの国々が、世界がさらに破壊されるのを防ぐための様々な努力を共に進めてきました。しかし、預言が予言した通り、これらの連合は目的を達成できませんでした。イザヤ

はこう記しています。「民よ、連合せよ。そうすれば、あなたは砕かれるだろう。」(イザヤ8:9,10) 諸国の集結に関する別の預言はヨエル3:1,2にあります。ここでの諸国の連合は、イスラエルが約束の地に再集結する時期と関連付けられています。この預言は、土地を巡る争いが起こり、主が民のために弁護し、彼らの正当な相続権を奪おうとする者たちに対抗されることを示しています。

これらの特定の出来事の詳細は、エゼキエルの預言、第38章と第39章に記されています。要約すると、これらの預言は、イスラエルが最終的にパレスチナの地を再奪還し、一定の平和と安全の中で住むようになることを示しています。その際、「北」から侵略国が「戦利品を奪う」ために現れるでしょう。預言の研究者は、イスラエルの北にある諸国がこの最終的な侵略の波に巻き込まれ、イスラエルを破壊し、軍事的に戦略的な聖地を占領しようとする試みがなされると予想しています。

この時点で、主は外的に介入を明らかにします。エゼキエル38章22節の預言では、主がイスラエルの敵に対して「疫病と血で訴え、彼と彼の軍勢、彼と共にいる多くの民の上に、溢れる雨と大きな雹、火と硫黄を降らせる」と述べられています。この預言が文字通りどのように成就するかは分からないが、この預言にはハルマゲドンの大クライマックスが描写されていることは確実である。すなわち、神が正義の敵を打ち破り、神の王国が地のすべての家族の祝福のために機能し始める、その大いなる戦いである。

私たちはこれが真実であることを知っています。なぜなら、この預言は、神の介入の結果、すべての国々――イスラエルを含む――が、主によって救われる際に、彼の奇跡的な介入により、その栄光を目撃するようになることを明かしているからです。その時、すべての国々は、天に神がおられ、その神が、神のキリストを通じて、人間の子供たちの中に支配しておられることを知るでしょう。

純粋なメッセージ

啓示録16章13節と14節では、「三つの不潔な霊」が、全能の神の偉大な日の戦いに諸国を召集する強力な影響力を振るうことが述べられています。聖書における清い、または聖霊は、キリストの福音の中心にある真理の霊です。その特徴は愛、喜び、平和、慈しみ、忍耐などです。預言的な不浄な霊は、したがって、地上に存在する明らかに不聖なる力であり、その命令的な宣伝によって諸国を動員し、互いに戦い合うように誘惑するものです。

ハルマゲドン後、主が「嫉妬の火」で全世界を「滅ぼし」、あらゆる不義のシステムを破壊した後、彼は「民に清い言葉」またはメッセージを授けます。このメッセージは、預言者が述べるように、すべての人々が「主の名を呼び、一致して彼に仕える」結果をもたらします。- ゼファニヤ書 3:8,9

これは、キリストの支配下で、人間の事柄における動機付けの力として自己中心性が愛に置き換えられる方法の一つです。そして、その正義の王国の支配下で、全人類は満足と喜びを見出すでしょう。実際、死んだ者たちも復活させられるのは、彼らもまた、いかなる征服者もその臣民に与えることのできなかった生命を与える祝福を享受するためです。キリストは、彼らに平和と幸福の中で永遠の生命を享受する機会を与えることができますし、与えるでしょう。

私たちは、神がハルマゲドンで命を失ったすべての人々を回復する能力と目的を有しているという確信を通じて、神の愛と正義を、その知恵がサタンの支配を覆すために選んだ方法に見ることができます。この大いなる闘争で命を失った人々は、神の立場からすれば、単に眠っているに過ぎません。彼の力は、新しい日の朝に彼らを目覚めさせます。彼らは、自身が苦闘した大いなる闘争の最終的な結末を目撃する機会を得ます。そして、疑いなく、彼らの大多数は、その時、全地の認め

られた支配者となる「王の王、主の主」への忠誠の誓いを喜んで立てるでしょう。 - 啓示19:16; 詩篇 72:1-4

罪と死の経験は、時代を通じて試練に満ちたものでした。特に現在、人間の自己中心性のため、世界中に「諸国民の苦難と困惑」が蔓延しています。（ルカ21:25）そこから得られる教訓は計り知れない価値を持ち、特にキリストの千年の支配期間中に与えられる命の祝福に対する感謝を大きく深めるでしょう。

この経験を通じて、全人類は神の律法に背くことの恐ろしい結果を学ぶでしょう。対照的に、王国の祝福が彼らに注がれる時、彼らは神の恵みを学び、心から応答するでしょう。「見よ、これが私たちの神である。私たちは彼を待ち望んでいた……私たちは彼の救いに喜び、喜び歌う。」 - イザヤ25:6-9

その王国は千年間統治します。その喜び、平和、愛、命の影響は、地球の隅々まで及ぶでしょう。その癒しの力は、すべての病院のベッドを空にし、命を与えるエネルギーは、

すべての墓まで届きます。すべての盲目の目は開かれ、すべての聾の耳は開かれるでしょう。 - イザヤ35

サタンが人々を欺くことや誤導することを許されることは、もはやありません。また、彼の自己中心と憎しみに基づく支配が、人類と国家の平和と幸福をさらに破壊することを許されることもありません。キリストの王国の教育プログラムの結果、世界は自己中心と憎しみよりも愛と慈悲の優位性を学ぶでしょう。人々は、自分たちができる限りのものを手に入れようと努めるのではなく、他者ためにできる限りのことを行うことが、真の深い喜びの秘密であることを学ぶでしょう。

神がアブラハムに与えた約束、すなわち彼の後裔を通じて地のすべての家族を祝福するという約束は、その時成就されます。私たちが見たように、キリストとその教会は、王国の天の段階において、この約束の後裔となり、回復された人類のすべての家族に命を与え

る祝福の通路となるでしょう。 - ガラテヤ人への手紙 3:29

アブラハムの時代以前に生きていた地のすべての家族は、現在死んでいます。アブラハムの時代以降に生きてきた地のすべての家族は、現在死んでいたり、死に瀕しています。自己中心主義に狂った世界で増加し続ける死の代償は、私たちに神の介入の必要性をますます強く感じさせます。そして、この介入が近いことを喜びましょう。神が祝福を約束したすべての人々が、死んだか死にかけているという事実が、神の約束を無効にするわけではありません。なぜなら、私たちは神の力が命を回復できることを確信しているからです。墓にあるすべての人々は、人の子の声を聞き、出て来るからです。 - ヨハネ5:28,29

これは単なる願望に過ぎないのか？いや、確かに、これは宇宙の創造主である神が約束されたことである！これは、人類の多数が苦しみと死のために創造されたのではないことを明らかにするものである。それは、すべて

の被造物にその力と知恵が示されている神が、彼らを愛し、その創造の目的を勝利裡に成し遂げるために力を用いたことを示すものである。

キリストの千年の支配の終わりに、サタン——すべての悪の扇動者——は滅ぼされる。彼に故意に従い続ける者も「第二の死」で滅ぼされる。サタンが人類の支配を簒奪した結果、数え切れないほどの人々が死んだが、彼はキリストの支配の結果の犠牲者リストに載る。 - 黙示録 20:10,14

サタンだけでなく、彼が欺瞞と悪意の方法で堕落した人類を欺き奴隷化したすべての悪も滅ぼされます。病気、苦痛、悲しみは滅び、死そのものも滅びます。 - 啓示 21:4

これらはすべて、神の手によってサタン、「あの古い蛇」の支配が倒されるためである。サタンは私たちの最初の両親を神の律法に背かせ、彼ら自身とその子孫に死の罰をもたらした。啓示の書に与えられた美しい象徴の一つは、人類を死から救うための神の介入を

表現する「聖なる都」が天から神によって降りてくることである。 - 啓示 21:2

聖書において、都市は政府を象徴し、聖なる都市は義の政府を意味します。しかし、それは人間の起源ではありません。人間が作った政府ではありません。神から天から発し、地上に確立されるものです。啓示の書の前半では、非常に不聖なる都市「バビロン」に注意が向けられています。一時的に、それは地の王たちを支配しました。

この「娼婦」の都市と関連する象徴的な「獣」は、不聖なる支配のもう一つの象徴です。獣と子羊（キリスト）との間には戦いがあります。獣は、不聖なる都市バビロンと共に滅ぼされます。

このようにして、聖なる都への道が整えられ、羊とその花嫁が諸国を支配する。この新しい支配は、神が真に地上に現れることを意味する。この点を説明して、啓示者は言います。「天から大きな声が聞こえた。『見よ、神の幕屋が人と共にあり、彼は彼らと共に住

む。彼らは彼の民となり、神自身も彼らと共にいて、彼らの神となる。』」 - 啓示 21:3

罪のゆえに神が人類から恵みを撤回された時、人々は死に始めました。ダビデは「彼の恵みの中に命がある」と記しました。（詩篇30:5）神が再び「幕屋を張って」人々と共に住み、キリストの王国という聖なる都を通じてその恵みを現わされる時、祝福された結果の一つとして死の滅びがもたらされます。パウロは、キリストがすべての敵をその足の下に置かれるまで支配し、最後の敵として滅ぼされるのは死であると書きました。（コリント人への第一の手紙15:25,26）この同じ祝福された考えは、啓示者によって強調されています。神の人間への恵みの回復が、聖なる都が人間の事柄を支配する形で現れる結果について説明し、彼は次のように書きました：「神は彼らの目からすべての涙を拭い去られる。もはや死もなく、悲しみも、泣き叫びも、痛みも、もはやない。なぜなら、以前のものはすべて過ぎ去ったからである。そして、玉座に座しておられる方が言われた。『見よ、

私はすべてのものを新しくする。』そして、私に言われた。『書き記せ。これらの言葉は真実で、信頼できるものである。』」 - 黙示録21:4,5

神に感謝しましょう。この義が罪と死に最終的に勝利するという確約のために！キリストの勝利を現す王国がこれほど近いことを悟れば、サタンの支配の最後の残党を打ち倒す世界規模のハルマゲドン闘争の考えに驚愕する必要はありません。私たちは、人々がキリストの支配を完全に妨げられることなく受け入れるための機会が与えられるために、これが必要であることを知っています。本当に、私たちは今、これまで以上に熱心に祈るべきです。「あなたの王国が来ますように。天においてなるように、地においてもあなたの御心が成りますように。」 - マタイ6:10